

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400294		
法人名	株式会社 建装		
事業所名	グループホーム さらさの家		
所在地	島根県出雲市東福町190-2		
自己評価作成日	令和4年10月24日	評価結果市町村受理日	令和4年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和4年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑に囲まれのどかな風景が広がる。木造平屋建てで、屋内は開放感ある吹き抜け、木の温もりを感じられる造り。また、敷地内には農園があり、旬の野菜を味わう事もできる。今夏、開所13年を迎え、更に地域へ根付いた事業所を目指し新たな取り組みも始めた。広報誌の配布を継続、地域ボランティアの受け入れ再開、次世代を担う学生の実習先として貢献している。事業所ゴミ削減のためリサイクル活動やクリーン活動にも力を入れた。基本理念「こちよくゆったりとあなたらしく」を念頭に、利用者様、ご家族様とのコミュニケーションを大切に、密な関係を築けるよう努めている。開所当時から勤める職員、経験豊富で資格保有者も多い。業務改善に前向きで、手書き記録からタブレットへ切り替えた。コロナ禍も資質向上を目的に、個々に応じたWeb研修プログラムを導入し、隙間時間で学んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「コロナ禍にあつて面会や外出の自粛が抑制された生活につながるのではないか」を職員一人ひとりが自分のこととして考える機会を設け、みんなで支援の方法を探り利用者が笑顔になるよう取り組んでいる。家族からの面会や祝い事での一時帰宅などの要望に感染リスク対策を取り対応している。農園や小、中学生との交流、リサイクル活動、地元店舗への「弁当注文」、防災など地域との関係作りを積極的に行っていて、広報紙は料理のレシピや脳トレ、防災関連情報など工夫した内容になっている。職員の研修に力を入れ短時間でWeb研修や各職員が講師となって学び合う機会を作りサービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は事業所内、所々に掲示しており、職員や来客者も目にする機会がある。また、管理者は、カンファレンス等で理念を意識した話し合いを行うよう心掛けている。	地域密着型サービスとしての事業所の役割を認識し積極的に理念の実践に努めている。カンファレンスなどでは常に理念を意識した話し合いを行い意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春は事業所主体のクリーン活動、秋は久多美地区主催の一斉清掃デーに参加した。コロナ禍、地域を応援する目的で、地元のお店からお弁当を注文したり、食材を配達して頂いている。	敷地内の農園を通しての交流や広報紙の回覧、地元店舗への弁当の注文、清掃活動など日常的に行い、小・中学校との交流も工夫して継続している。10月からは体操のボランティアとの交流を再開した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	旧平田市の4地区へ、広報誌を配布し地域の皆様へ回覧している。事業所の活動や利用者様のご様子、裏面には豆知識や脳トレ、レシピ等を掲載し情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染状況に応じ、通常開催や書面会議を実施し皆様からの意見をお聴きしている。ご意見のみならず、地域行事やお薦めのお店等についても知らせ下さり参考にしている。	利用者の状況や活動などを詳細に報告し、書面開催の場合も項目を挙げて意見を聞いている。4地区の委員の参加があり、活発に意見交換を行い情報提供や助言などを受け運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールや電話でのやり取りに加え、アンケート等への回答はタイムリーに行っている。提出物に不備がないよう事前に確認し猶予をもって郵送した。異動時など直接お礼を伝えることもあった。	運営推進会議での情報交換や、提出書類の相談など、日頃から連絡を取り合い協力関係を築き取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3ヵ月毎に開催している。指針の読み合わせから始め、利用者様に使用するセンサー、事業所内の施錠についても検討。また、状態に応じ主治医へ処方薬の減薬の相談も行っている。	身体拘束の内容を様々な観点から検討し、身体拘束適正化委員会ではコロナ禍の中で面会や外出の自粛について職員一人ひとりが対応を考え拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	令和4年8月に指針を整備し、身体拘束適正化委員会との同時開催を実施した。また、導入しているWeb研修には高齢虐待についての研修も含まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修には必ず権利擁護について学ぶ内容が含まれている。成年後見制度の対象者はないが、ご家庭の事情を酌み、ご家族へお伝えした事があった。人材センターの研修の参加も検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	多忙なご家族様、コロナ禍を踏まえ契約時間の短縮を目的に事前に契約書類に目を通す期間を設け、説明書や記入例の添付、色付けなど工夫した。重要な項目等については口頭での説明で理解と同意を得た。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族アンケートを実施し、要望や意見をお聴きし反映している。事業所の環境整備へご協力頂き、ご家族様同士の交流機会を持ちながらご意見をお聴きした。また、面会時の些細な会話から酌みとる事もある。	面会時や電話、家族アンケートなどで意見を聞いている。コロナ禍の中で面会制限はあるが、一時帰宅の希望や相談を受け感染対策を取り思いに沿うよう対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に運営法人とミーティングを行い、日頃の意見を管理者が代弁している。業務改善の一貫でタブレット導入など積極的に反映できた。また、必要物品の購入や提案を誰でもする事ができる仕組みがある。	管理者は日頃から職員の意見や要望を聞くことに努め、毎年、年明けには職員との面談を行っている。職員の意見は代表者に伝え、タブレットを導入して記録時間の短縮を図るなど業務改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに雇用契約書を手渡し、自身の昇給金額を確認できる。年明けに新年の抱負を書き自身の目標を立てている。面談を実施し、個々の家庭事情や体調面を考慮し労働時間の変更や長期休暇等も応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍Web研修を導入し、令和4年度は個々の経験年数や職位に応じたプログラム内容となり、隙間時間で受講できるようにしている。職員が交替で講師役を努めるミニ講座を2ヶ月毎に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平田地区で開催された、出雲市主催の認知症フリートークへ参加し、日頃の困り事など話し合いの機会があった。メールや電話等で同業者とのやり取りで相談できる。同一法人の職員と意見交換する機会を設けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化で不安感が強くないよう、こまめな声掛けを行っている。入浴時等の個別ケアのタイミングで困り事や要望、生活歴などについても会話の中で聞き出し共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所されてから当面間、ご家族様への連絡頻度を増やし、表情や活動中の写真も送り安心して頂けるようにしている。随時ご家族様からの相談には対応し解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所ができる事、できない事をしっかり伝え、入所の際に、必要となる福祉用具や排泄用品など価格も踏まえ相談している。また、必要になる可能性がある物やサービスについてもお話した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意な事や習慣などを大切にお願ひできる事はお願ひし、支援を必要とする所は一緒に行っている。年長者への感謝の気持ちを忘れず、ケアに携わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所だけで抱え込まず、ご家族様の協力も得ている。通院介助や一時帰宅等の支援、白寿の祝いなど家族にしかできない事も提案し共に支えるため密に連絡を取りながら良好な関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設事業所からの入所もあり、事業所内は自由に行き来できる。入所前からの付き合いがある方との文通や電話なども支援している。地域の祭事についての問い合わせ等、自宅周辺の知人にも協力を仰いだ。	家族との関係を大事にしあおぞら面会や直接居室に入る方法など工夫して面会を支援している。馴染みの美容院に行ったり、一時帰宅や知人との交流、併設事業所の人との交流など支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入退所に合わせ、気の合う利用者様を考慮し配置換えを行っている。難聴の方同士の会話では、職員が間に入り橋渡しする事もある。利用者様同士での行き違いがある時も同様に間に入り誤解を解いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態により入院後の受け入れが困難な場合も経過については連絡を継続し、新たな入所先が決まるまで支援に努めた。また退所後のご家族様とも年賀状や残暑見舞い等での繋がりがあがる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向は、何日か何人かに分け伺い把握するようにしている。日々の会話から、趣味嗜好や思い出、望む暮らしについて情報収集している。家族の意見も参考に本人が何を望んでいるかを考える機会を設けた。	家族からの情報や、日々の会話の中から希望や意向の把握に努め、利用者の望む暮らしをみんなで検討し共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能であれば入所前、ご自宅へ訪問し在宅環境を確認し、難しい場合は自宅の写真をご準備頂くなどしている。暮らしの情報シートをご家族様にはご記入をお願いし以前の暮らしについて把握に努めた。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共同生活において、集団で過ごす事も居室等で過ごす事も自由に選択できる。体調や状態にお変わりがある時などは、申し送りでも共有し注意深く観察し記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2~3か月毎にカンファレンスを開催し介護計画の作成やモニタリングで評価している。状態に応じ福祉用具が必要な場合、福祉用具の担当者へ相談、家族にも報告した。気付きや課題を踏まえ計画書の変更も検討。	利用者、家族の希望を聞き、利用者の力を活かす支援や日記や家事などこれまで継続してきたことが出来るように介護計画を作成している。状況に応じて関係者と話し合い現状に即した支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きは記録に残し、気になる点や改善点、ケアの統一、できる事に目を向けカンファレンスを実施。一定期間、ケアのお試し期間を設けるなど必要性についても検討し介護計画へ反映した。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ワクチン接種会場への移動も困難で、出雲市と連携を図り、接種券の管理や事業所での摂取を調整した。県外のご家族様の帰省に合わせ、検査キット購入費の助成等お知らせし白寿の祝いで再会できた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元中学校のアルミ缶リサイクル活動に協力し、職員や農園利用者からアルミ缶を回収し届けている。出雲駅伝の観戦は、同一法人の駐車スペースを借りた。移動販売車で利用者様が欲しい物が買う事もできる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を継続する事も可能。困難な時は、近隣病院の情報提供し、協力医を中心に新たなかかりつけ医へ繋げる。主治医への報告、他科受診時は書面で状態を報告し、必要な場合付き添う。	利用者、家族の希望する医師の受診を支援している。定期的な訪問診療と家族と受診することもある。利用者の変化を見逃さず医師に相談し減薬につなげたり、早めの対応を行い支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調に変化があった時には、出勤時には報告し共有している。また、処方薬についての増薬・減薬・屯用など相談している。また、往診に備え、介護・看護・医療が連携できるよう状態報告書を作成している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が困る事のないよう、基本的には入院当日には情報提供書を届けている。地域連携の担当者とは定期的に連絡を取りながら、病状の把握、治療方針など伺っている。可能な限りICへ同席し受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談や入所時など、その時点でのご家族の意向など確認している。事業所で対応が難しいケースの説明など具体例を挙げお伝えしている。利用者様の状態に合わせ、話し合いの場をその都度設けている。主治医との連携に繋げている。	状況変化時や医療的なケアが必要になった時はその都度家族や医師と話し合い方針を共有して対応している。コロナ禍での看取りの経験がありいつでも家族が会える体制を取り支援した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の多くが、普通救命講習を修了している。また、3年毎に再講習を受講。緊急時の連絡体制が整備され、夜間は万が一に備え待機者を設けている。救急搬送した時は、後日振り返りを行い今後活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災における訓練は、昼・夜想定で実施し消防署からアドバイス頂いた。日頃より悪天候時は事前に福祉避難所の鍵を借り保管。水害訓練は、実際に避難所へ移動し実践力を身に付けている。概ね3日分の備蓄あり。	年間計画を立て昼夜想定火災訓練や風水害、地震対応の訓練を行っている。前年度の反省から今年度は役割分担と訓練前月に防災ミーティングを行い取り組んでいる。地域の防災訓練に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	下着の洗濯物は、ご自身で畳んで頂くか職員が行っている。着替える時はカーテンを閉めるなど配慮している。入浴等の異性介助は同意を得ている。同性介助を希望される方には対応している。	排泄時や入浴、更衣時などプライバシーに配慮し支援している。新聞への投稿「入浴時の異性介助」について、運営推進会議で意見交換を行い利用者の思いを尊重した対応をすることを伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けは「～ですか？」を意識し相手を選択できるよう心掛けた。外出やメニュー決め、レクへの参加においてもその日の気分で決めて頂ける。一時帰宅などはご家族と連携し調整しながら可能な限り応じている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	併設事業所の職員と連携し、利用者様が自由に行き来する事ができる。スケジュールの目安はあるが、個々に合わせ離床時間や食事時間は変えている。あえて声掛けせず、自発的に歯磨きへ向かうよう見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理髪店を利用される方、訪問理美容店を利用される方がいる。希望に応じ白髪染めもできるよう入浴日に合わせ調整した。化粧水や乳液の使用習慣や外出時には口紅でお洒落を楽しまれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日はお好きなメニューを伺い反映している。季節行事には普段と違うメニューや食器で華やかさも演出している。ノンアルコールで乾杯する日もある。日頃より食材切りや盛り付けなどお手伝いして下さる。	収穫した野菜なども使い手作りしている。利用者も食材切りや盛り付けなど出来ることを行っている。「お弁当の日」には複数の地元店舗の弁当を楽しみ、昼食会や誕生日には好みのメニューで楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	禁止食材がある方は、個別に代替品を用意する。また体調、嚥下機能に応じお粥や柔らか副菜を提供した。個々に合った形状、自助食器、軽量食器等で工夫し自分のペースで食べられるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケア用品、義歯洗浄剤等を使っている。必要に応じ口腔ケアの声掛け、磨き直しをした。用品の補充や交換も支援した。協力歯科医へ義歯の相談する事もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意を訴えられた際は勿論、利用者様のサインに気づきトイレへ案内している。夜間ポータブルトイレを設置している方も、日中はトイレへ行けるよう支援した。パットを自分で交換できるよう、トイレにパット入れを準備した。	出来るだけトイレで排泄出来るように声をかけ支援している。自分でパット交換が出来るようにトイレに置き場所を作ったり、夜間ポータブルを使用し安眠やパット数の減につながった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、牛乳の提供やヨーグルト、ヤクルト等も提供している。主食にもち麦や雑穀を加える日もある。水分補給の機会が多く摂取量を意識し、必要に応じ摂取量を記録する。適度な体操をレクで促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望時間に浴えるよう、お伺いし同意を得るようにしている。基本週3回としているが、本人の年齢や体調及び病状に応じ、2回やシャワー浴や清拭に変更する事もある。入浴剤を選べるよう何種類か用意している。	「3時では早い」という人には時間をずらしたり、「一番風呂」の意をくみ取った対応をするなど希望の時間帯に支援し、体調を見て清拭など柔軟に対応している。入浴剤や季節のゆず湯を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の習慣を大切に夜間はパジャマへ更衣して頂き休んで頂いている。更衣が難しい方には、安楽な着衣を用意し睡眠の妨げにならないよう支援した。夜間不眠時や体調に応じて日中、居室で休息できるよう声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬方法は個々に合わせ、袋のまま手渡す方や手のひらに錠剤を乗せる方、介助する方がいる。形状については、主治医や薬剤師と相談している。処方薬の変更は説明書、申し送りで共有。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を大切に、施設行事や誕生日などノンアルコールを提供する事がある。また、ご希望のメニューや旬の食材を使った食事心掛けている。新聞や好きなTV番組を楽しむ方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染状況を考慮しながら、ご本人の希望に応じ馴染みの理髪店へ出掛けす事ができた。自宅近所の方と連絡を取り、一時帰宅の際にお会いできる機会もあった。親族との連携を図り白寿の祝いをご自宅で迎えられるよう支援した。	テラスでお茶を飲んだり野菜の植え付け、散歩など日常的に外気に触れる機会を作っている。コロナの感染状況を見ながら花見ドライブや駅伝応援などに出かけたり、家族や知人と連携して希望の外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金がない事を心配される利用者様には、ご自身の財布を居室で保管して頂いている。また、必要物品の購入や外出時などは、お預かり金を使う事もできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡を希望された際は、電話を掛け本人にお繋ぎする。友人、知人、家族から様子を聞かれた時なども直接お話する機会を設けるようにした。また、馴染みの方との文通、オンライン面会も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の壁飾りやご家族様や職員が持ち寄る季節の花などで季節感を意識している。温・湿度計で空調を管理し冬場は適度な加湿をしている。また、換気の時間を設け感染対策にも努めた。照明も暖色、寒色を使い分けしている。	窓の景色が見える広く開放的な空間作りを行い光や空調、換気にも配慮している。ホールと少し離れた居室前にもテーブルを置き寛げる空間を作っている。小、中学生から贈られた暑中見舞いの壁画など飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の入退所、状態に合わせホールの配置、席替えをしている。自由に併設事業所へ行き過ごされる方、日の当たる場所で、日向ぼっこされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に可能な限り馴染みの家具、飾り、寝具を持参して頂いている。また、自宅の環境や配置等も考慮した部屋づくりをした。居室環境についてのカンファを要望や改善に繋げている。	写真や家具、日用品など利用者、家族の希望の物を持参してもらい、誕生日や祝いの写真などを飾っている。自宅を訪問して住環境を知り利用者が落ち着いて暮らせる居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の移動の妨げにならないよう、廊下に物を置かないよう心掛けている。また、「便所」には案内表示をしている。必要な方には迷わないよう自室前に表札や目印で案内している。		